

委員会行政視察報告書（令和 8 年 3 月 27 日）

日 時：令和 8 年 3 月 27 日（金）
視 察 先：武蔵村山市 桜の回廊（野山北公園）
視察事項：「所管事務調査：公園・緑地及び樹木に関すること」桜の回廊の先進地の現状について
<p>内 容</p> <p>東大和市でも整備を始めている「桜の回廊」について、平成 28 年より「桜まつり」を実施している武蔵村山市野山北公園を始めとした桜並木を視察いたしました。</p> <p>桜並木は、村山・山口貯水池を建設するための資材や砂利を運ぶトロッコ鉄道（羽村・山口軽便鉄道）の廃線跡を利用した野山北公園自転車道沿いに全長約 1 km に渡り、桜の回廊を形成しています。翌日 28 日（土）が第 11 回武蔵村山市桜まつり開催日ということもあり、桜の木にはライトアップ用の LED ライトが設置されていました。</p> <p>視察には武蔵村山市関係者の同行なしで行われたため定かではありませんが、桜の木の樹齢は 40 年から 50 年は経っていると思われる老木がほとんどで、左右規則正しく植樹されたソメイヨシノは所々で幹から切られている姿も目に入り、これは恐らく根本の腐敗等によって、予防的に伐採されたものと推測されました。また、伐採後新たに植樹された形跡はほとんど見受けられませんでした。老木であることから、ソメイヨシノ特有の現象である「根上がり」の状態になっている木も多く、自転車道の両脇の地面が盛り上がっている箇所が目につき、桜の木の管理の難しさを改めて感じました。</p>
<p>視察を終えて</p> <p>東大和市が整備を始めた桜の回廊の品種はしだれ桜と聞いています。ソメイヨシノほどではないでしょうが、樹齢が増せば根上がりの現象は少なからず起こると思われまます。また、桜は毛虫などの害虫が好む樹木でもあり、市民が憩う回廊としての管理は大変重要になることが予想されます。</p> <p>かつて都市計画道路 3・4・26 号線の工事によって青梅街道とハミングロードとが分離され、新たに南街四丁目交差点が整備された際、地元住民からの強い要望により交差点付近にシンボルツリーとして 4 本の桜の木が植樹されました。管理者である東京都は当初、根上がりや害虫等、管理上の問題のある桜の植樹には反対の意向を示していましたが、件の問題がほぼ無い新品種である「陽光」を植樹することで理解を得られた経緯があります。</p> <p>東大和市の桜の回廊整備におきましても、桜特有の管理上の問題の少ない品種も今後は植樹していくことも必要なのではと考えます。特に「陽光」は早咲きの品種でもあるので、長い期間市民に桜を楽しんでいただけるものになると思います。</p>

※視察の資料等については、議会事務局に保管してあります。